



船越栄次先生

Periodontal regeneration therapy & Implant site preparation

歯周治療の主な目的は、歯周疾患の進行の停止、患者によるブラークコントロールの行いやすい口腔内環境作りであり、その結果、歯や歯周組織を長期的に維持することである。

1970年代までは切除療法や歯肉歯槽粘膜形成外科が歯周外科治療の主流であった。しかしながら、既に進行した重度歯周炎に切除療法を実施することで、長い歯根露出による審美性と知覚過敏症の問題、さらには根面蝕蝕発生等が指摘され始めた。そこで、歯周組織の再生を目指した治療法として、1970年代後半に細胞遮断膜を用いた歯周組織誘導再生療法（GTR法）が考案され、今日まで臨床応用が行われている。1990年代後半に開発されたEnamel Matrix Derivative（EMD：商品名エムドゲイン）を用いた再生療法は予知性を持った治療法の一つとして世界中の多くの臨床家に認知されている。このEMDはGTR法が機械的再生療法とされるのに対し、生物学的再生療法として定義づけられている。また最近では、種々のサイトカインが含まれたPRP（Platelet Rich Plasma、多血小板血漿）を用いた再生療法も実際に臨床の場で応用されている。

予知性が高いインプラント治療は、今日欠損補綴治療の1つのオプションとして広く認知されている。Branemarkがオッセオインテグレーションを提唱した当時のインプラントは無歯顎が対象であり、その後部分欠損症例にも行われるようになったが、十分な歯槽骨が必要であった。しかし、GBR法が確立されたため、骨吸収が著しく以前では不可能とされた症例にもインプラントの埋入が可能となった。従来のGBR法では、膜を一次閉鎖するための骨膜減張切開を必要とするので患者の苦痛が大きく、術後の腫れや疼痛が生じる欠点があった。そのため、一次閉鎖を行わず、膜を口腔内に露出させた状態で管理していくオープンバリアメンブレンテクニックを2002年より当院において実施したところ、良好な結果を得ることができた。このとき用いる膜は高密度のPTFE（High-density Polytetrafluoroethylene）である。この膜は非吸収性で化学的に安定した合成材料であるため、生体不活性で炎症を引き起こさないという特徴をもつ。膜表面には0.2μm以下の孔が付与されており、細菌の侵入を防ぐ一方で酸素や小さな分子は膜を通過することができる。膜の埋入時には血漿タンパクで表面が覆われ、細胞附着が起きることで口腔内に露出しても細菌が膜の周囲や下へと侵入することを防ぐことができる。膜表面には軟組織が入り込むことがなく、除去は容易である。こうした高密度PTFE膜を使用するオープンバリアメンブレンテクニックは歯肉弁を伸展させる必要がないため、術後の腫れや患者の不快感が少なく済むのが利点である。

現在は吸収性膜についても同様の手技を行っており、良好な結果を得ている。

今回は、非吸収性膜の症例を中心に、オープンバリアメンブレンテクニックの要点を述べてみたい。

また、今日のインプラント治療では上顎洞底まで距離がない症例においても、上顎洞挙上術により上顎臼歯にもインプラントの埋入ができるようになり、適応症は大きく拡大した。近年、さらに患者の要求は高まり、天然歯に限りなく近い審美インプラント、埋入から最終補綴までの治療期間の短縮等が最近のインプラント治療の傾向として挙げられる。

今回は、最近の天然歯の再生療法とインプラントサイトのGBR法（歯槽堤増大術）について、症例を通して供覧したい。

講師：船越栄次先生

日時：2009年7月5日(日)09:30~16:00

会場：熊本県歯科医師会館 ホール

熊本市坪井2丁目4番15号 TEL 096-343-8020

定員 100名

費用： 会員歯科医師 5,000円
 会員歯科医師以外 3,000円
 会員外歯科医師 8,000円
 会員外歯科医師以外 5,000円

申込：熊本S.J.C.D.事務局 (有限会社アワデント内)

〒862-0933 熊本市小峯1丁目1-95

096-331-0567(fax096-331-0577)

taka@ourdent.com 粟津貴昭

(講師略歴)

- 昭和46年3月 福岡県立九州歯科大学卒業
- 昭和46年8月 Tufts大学院入学
- 昭和47年9月 Tufts大学歯学部非常勤講師
- 昭和48年4月 Tufts大学歯学部大学院卒業 Certificate of Periodontology授与
- 昭和48年9月 Indiana大学院入学
- 昭和51年4月 Indiana大学歯学部大学院卒業 Master of Science in Dentistry授与
- 昭和48年5月 Indiana大学歯学部助教
- 昭和52年7月 同大学歯学部准教授
- 昭和55年8月 福岡市にて船越歯科医院開業
- 昭和57年4月 ~平成11年3月 鹿児島大学歯学部非常勤講師
- 昭和58年4月 ~平成8年3月 日本臨床歯周病学会幹事
- 昭和60年4月 九州歯科大学非常勤講師 現在に至る
- 昭和61年11月 日本歯周病学会評議員 現在に至る
- 昭和63年5月 FICD (国際歯科学士会) 認証
- 平成元年10月 日本歯周病学会指導医認定 現在に至る
- 平成4年4月 日本歯周病学会理事 現在に至る
- 平成10年10月 FACD (米国歯科学士会) 認証
- 平成11年12月 九州大学歯学部臨床教授 現在に至る
- 平成15年4月 ~平成19年5月 日本臨床歯周病学会会長 (理事長)
- 平成15年4月 ~平成19年3月 日本歯周病学会常任理事
- 平成15年4月 日本臨床歯周病学会指導医 現在に至る
- 平成17年9月 ITI section Japan Chairman 現在に至る
- 平成19年4月 日本臨床歯周病学会常任理事 現在に至る

勤務先・連絡先	区分	DR	他	参加代表者名	合計額
〒	会員	人	人		
TEL/FAX	非会員	人	人		
e-mail					円